

町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1
電話：74-0212 FAX：74-0105
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

どこまでも広がるおしゃべりの輪

▼小鴨カフェ（男のクラブ）&おしゃべりカフェ交流会



(写真上) 小鴨カフェの皆さんによる紙芝居「太一車の発明」の上演、(写真左下) 会場に飾られた藤の花

4月26日、おしゃべりカフェの皆さんと、倉吉市の小鴨公民館「小鴨カフェ（男のクラブ・北村隆雄代表）」の皆さんとのカフェ交流会が開かれました。

はじめに、両公民館長のあいさつがあり、その後、両カフェの代表による実践発表が行われました。交流会には、黒坂

小学校5年生の児童も参加。小鴨カフェの皆さんによるコーラスや、「太一車の発明」と題した紙芝居も上演され、会場は大いに盛り上がりました。

特に、紙芝居は、日野高校と黒坂小学校との交流の一つでもある「米づくり」の中で使われる除草器具「田車」の発明



者・中井太一郎の生涯を描いた力作。実際に田車を使って米づくりをしてきた黒坂小学校の児童も真剣に聞き入っていました。

また、会場には、大きな藤の花（黒坂・荒木朝則さん作）が飾られ、交流会に花を添えました。そして、何よりおしゃべりカフェのスタッフの皆さんが入れるおいしいコーヒー。最後まで笑顔いっぱい交流会となりました。

安全・安心は日ごろの心がけから

▼第1回おしどり学園



▲詐欺の巧みな手口を紹介する土井田さん

5月18日、第1回おしどり学園を開きました。

今年度最初となる一般教養講座では、「高齢者の安全・安心のために」と題し、黒坂警察署長の土井田淳さんが講演を行いました。土井田さんは、今春警察署

長として就任したばかり。早速、学園生に黒坂警察署が現在取り組んでいる、高齢者などに対する①交通（死亡）事故の被害・加害防止、②特殊詐欺などの被害防止対策の強化について話しました。

交通事故防止対策として、道路横断時の注意点や運転者が注意すべき行動などをあげた土井田さん。また、県内で多発しているオレオレ詐欺や還付金詐欺、架空請求詐欺などの特殊詐欺事例を具体的に紹介し、学園生に被害防止を呼びかけました。

学園生は、土井田さんの説明にうなずきながら、黒坂警察署がより身近に感じられる講演となりました。

町青少年育成会会長に神庭賢一さん



5月16日に、日野町青少年育成会総会を開き、神庭賢一さん（町公民館長）を会長に選出しました。

任期は、平成31年3月31日までです。よろしくお願ひします。

祝！来場2万人突破！おしゃべりカフェ



▲笑顔で花束を受け取る松原さん（左）とスタッフの皆さん

5月8日、町公民館で開いている「おしゃべりカフェ」の来場者が、ついに2万人を突破しました。

記念すべき2万人目は、松原良二さん（黒坂）。松原さんは、おしゃべりカフェの常連でいつも利用していただいています。

おしゃべりカフェは、平成25年6月に開店、5周年目前での2万人達成となりました。今後も、黒坂・菅福地区に限らず町内外の交流の場として一層発展してほしいものです。

皆さん、身も心もあつたまるおいしいコーヒーが飲めるおしゃべりカフェにどうぞお越しください。コーヒーを飲みながら、笑顔でおしゃべりしましょう。

<「感謝の気持ちを込めて…」特別サービス♪>

おしゃべりカフェでは、開店5周年と2万人達成を記念して、6月28日（木）午前10時から、先着各50人に、コーヒー（ケーキ付）と紅白もちを無料でサービスします。

おしゃべりカフェ

開店日：毎週火・木曜日

開店時間：午前10時～午後3時

ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第59回

ホントに「四十曲」UNNOG. 〓地名が語る 日野の歴史⑦〓
岡山県との境に位置する板井原は、その昔、出雲街道の宿場「板井原宿」として大変賑わっていました。板井原神社に残る見事な彫刻は、その繁栄を裏付けるものといえるでしょう。

「板井原」の由来は、街道を行き来する旅人の喉を潤すため、清水が湧き出るところを板で囲んだ「板井」にちなむといわれています。その出雲街道のうち、「東の箱根、西の四十曲」と称されたほどの難所が、板井

協力：日野町歴史民俗資料館友の会 参考：「鳥取県の地名」



▲山菜料理に腕をふるう参加者

春を感じさせる香りと味覚に大満足 ▼春の山菜を楽しむ会

5月10日、公民館学習「春の山菜を楽しむ会」を開きました。講師に、日野町食生活改善推進協議会の皆さんを招き、春ならではの山菜を使ったレシピに挑戦しました。今回のレシピは、「ミョウガ汁」「タケノコとシイタケのシューマイ」「フキノどろぼう」「抹茶ミルクもち」の4品。参加者は、3班に分かれ、日ごろの腕をふるっていました。調理後はできあがった山菜料理を味わいました。どの料理も春の息吹を感じるものばかり。参加者は完成の喜びとおいしさに笑顔満開でした。